

学校教育目標	めあてをもち よく考えて行動し 最後まで挑戦する 児童の育成
育成を目指す資質・能力	主体的に学び、思いを伝え、進んで問題解決することができる力

	学力状況について	学習状況について
児童生徒の課題	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ・国語では2学年共通して、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」の内容に課題がある。 ・算数では、単元により苦手の分野が存在している。 「6年 変化と関係」「5年 データの活用」 ・理科では予想・結果・振り返り等、自分の考えを書く力に課題がある。	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ・学習したことを反復して学習する機会が少ない。 ・「話すとき、聞くとき」視点をもたず、漠然と話し合っている。 ・身の回りの事象について、データに基づいて判断したり、生活や他教科と関連付けながら読み取ることが苦手である。
	これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から) ・90%の児童が授業中に自身の考えや意見をもつことができている。そして、考えを発言・発表できる(ペア・グループ学習を含めて)と答えた児童の割合も87%に達し、目標値(80%)を上回っている。考えや意見を持ち、伝えようとする児童が増えてきている。 ・学年×10分+10分を意識した家庭学習の習慣化については86%の児童が達成しているが、残りの子どもの習慣化が課題である。	
指導の状況	1 組織的な授業改善の取組状況 ①生徒指導の三機能を意識した授業づくり ②子どもが主体的に学ぶための効果的な対話活動の工夫 ③指導方法の工夫・改善・・・算数の授業における少人数制(習熟度別)授業(4年)、学年の実態に応じた教科担任制(4・5・6年) 2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況 ・朝の15分間の「チャレンジタイム」の取組による基礎・基本の定着(火曜日、金曜日) ・「読み取り」「書く」「表現力」の向上をねらった週末課題の取組 ・学習規律の徹底 ・ユニバーサルデザインを取り入れた学習環境	

学力に関する達成指標

国語・算数の単元テストの「思考・判断・表現」で未定着層(正答率65%未満)の割合を15%以下にする。

今後の具体的な取組	【授業改善】	【家庭・地域との協働】
	〈授業改善のテーマ・重点〉 主体的に学び、思いを伝え、進んで問題解決ができる子どもの育成 《授業改善の重点》 ①生徒指導の三機能を意識した授業づくりの推進 ②考えを深められる効果的な対話活動の工夫 ③児童による家庭学習への向き合い方の自己理解	
	〈取組内容〉 ①生徒指導の三機能を意識した問題解決的な授業の展開の工夫 ②考えを深められる効果的な対話活動の設定(ホワイトボードやICT機器等の活用) ③家庭学習振り返りカード(児童)の実施	〈家庭・地域の取組内容〉 ①家庭学習の習慣化 ②家庭と協働して、子どもの成長を図る。 ③読み聞かせや学びの広場(公民館や青少年協主催行事)を行う。
	〈取組指標〉 ①毎日、問題解決的な展開の授業(児童の意欲を引き出す「課題」とそれに連動した「まとめ」)に取り組む。 ②考えを深められる効果的な対話活動を取り入れた授業づくりに取り組む。 ③毎月の家庭学習振り返りカードで全ての項目で、肯定的回答が80%以上となるように指導する。	〈家庭・地域の取組指標〉 ①月に1回、「家庭学習振り返りカード」について、家庭学習のあり方を共有する。 ②学期に1回、ファミリーウィークを行う。 ③学期に3回程度読み聞かせを行う。年間を通して、学びの広場を1回以上実施する。
	〈検証指標〉 ①単元に1回以上、ノートをチェックして、授業の振り返りを次の授業に生かす。 ②学期に1回、児童アンケートを実施し、「自分の考えをもつ場面や振り返りの場面で進んでノートに書くことができる」「自分の考えを友だちや先生に伝えている」と答える児童80%以上。 ③毎月の家庭学習振り返りカード(児童)、家庭学習調査(保護者)の結果を分析する。	〈家庭・地域の検証指標〉 ①振り返りカードをチェックしている家庭の割合が90%以上 ②ノート等チェックし、ファミリーウィークに取り組んでいる家庭70%以上 ③読み聞かせ及び「学びの広場」の実施率が80%以上
	【授業改善以外の学力向上の取組】 ○教師の授業力向上研修(視聴覚教材やICT等を使った実践的な活用方法やシンキングツールを使った授業づくりの講習会、外国語や道徳等の授業実践交流)と成果の蓄積 ○基礎・基本の定着を図る個別指導や補充学習の取組 ○小中一貫教育の推進(表現力・実践力の育成、9年間をつなぐ学びの連携、話し合い活動の取組)	